

漢方内科

1. スタッフ

科長（兼）特任教授 萩原 圭祐

その他、特任助教2名、特任研究員3名、医員1名、特任事務職員2名、事務補佐員7名（共同研究講座を含む。）

2. 診療内容

漢方は、本来、心身一如の精神に基づいた総合診療であるが、大学病院は高度な先進医療を行う施設であることから、各科の専門知識を踏まえ、先進医療と伝統医学との融合を目指すことで、患者のQOLの改善につながる新たな診療体系の構築を目標としている。リウマチ・膠原病・難治性アレルギー疾患を対象とした免疫難治疾患外来、様々な癌における術後・化学療法・ホルモン療法に伴う症状に対処し、患者のQOLの改善、化学療法の継続などをサポートする癌支持療法外来などを開設している。特に、免疫アレルギー疾患では、抗サイトカイン療法や免疫抑制剤などと漢方の併用を積極的に行っている。癌支持療法外来では、癌の食事療法として、癌ケトン食療法を行っている。また、神経内科出身の医師を特任助教に加え、脳卒中、パーキンソン病などの神経疾患にも対応している。

診療では、国内において保険適用されているほぼ全ての種類のエキス製剤及び生薬製剤の処方が可能であり、幅広い疾患に対応することができる。また、生薬の治療は保険適用外と思っている患者も多いが、実際には150種類程度の生薬製剤が保険調剤可能である。また、鍼灸外来も開設している。

3. 診療体制

外来の場所は総合診療部を使用。月曜日から金曜日まで午後診、木曜日は午前診も行っており、1週間の外来コマ数は6枠である。漢方診察の特殊性として、診療に時間を要することから初診・再診ともに完全予約制をとっている。

初診の予約については、院外からは保健医療福祉ネットワーク部への申し込み、院内からは主治医からの院内予約（電子カルテでの入力）が必要である。特に、院内からの紹介希望があることから、毎週月曜日に、院内初診外来枠を設けて対応している。

病棟部門は運営していないが、他科入院中の患者のコンサルトは行っている。ただし、院内に採用されている漢方薬が限られているため、十分な処方を行うためには、薬剤の限定採用が必要となることが多い。

研究セミナーとして、平成30年11月に、第10回なにお漢方研究会を「がんと漢方」というテーマで、医療

法人徳洲会日高徳洲会病院の井齊偉矢先生を招き行った。また、当科萩原が代表世話人を務める癌ケトン食研究会では、癌におけるケトン食療法のエビデンス構築、機序の解明を目指し、ケトン食療法が実践できる環境を整えるべく、平成31年3月に、第二回癌ケトン食研究会学術集会を開催した。

4. 診療実績

- (1) 外来診療実績: 特定疾患管理料などの算定により、平成30年度の診療実績は改善している。疾患群としては多いものから順に、リウマチ・膠原病・難治性アレルギーなどの免疫疾患、身体表現性障害、慢性疼痛、気分障害・不安障害などの精神科疾患、パーキンソン病や脳血管障害後遺症などの神経疾患、産婦人科疾患、悪性腫瘍化学療法・ホルモン治療後の患者、皮膚科疾患、消化器疾患、循環器疾患、内分泌代謝疾患、泌尿器疾患、耳鼻科疾患、腎臓疾患など、多岐にわたる。
- (2) 入院診療実績: 対診のみであり、当科入院実績はなし。

5. その他

- (1) 倫理委員会承認済みの臨床研究: 「癌患者に対するケトン食（低炭水化物高脂肪食）の有用性の検討」
- (2) 学会による施設認定状況: 日本東洋医学会認定教育施設
- (3) 学会認定の指導医・専門医数（重複あり）:
 - ・日本東洋医学会指導医2名、同専門医2名
 - ・日本内科学会認定医2名・総合内科専門医2名・指導医1名
 - ・日本脳卒中学会専門医1名
 - ・日本リウマチ学会専門医1名・指導医1名
 - ・日本産科婦人科学会専門医1名